

科目名	現代社会と福祉 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	伊東 良輔		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	視覚障害歩行訓練士		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	社会福祉士の役割を理解し、他者へ説明することができる 介護保険制度、障害者支援制度の利用手続きとサービスを説明できる。 その他の社会保障制度の概要について説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					社会福祉士として福祉を学ぶ意義を自らの言葉で説明することができる。	
		○				社会福祉に関する基礎的知識を身に付け、実践現場で活躍できるようになる。	
				○		社会人として必要な態度や言葉遣いを意識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	現代社会と福祉 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション ①科目説明、②生活					
	2	①家族、②地域社会					
	3	①社会と組織、②ライフスタイルの変化(1)					
	4	①ライフスタイルの変化(2)、②生活支援と福祉の体系					
	5	①資本主義と社会保障					
	6	①社会保障制度の発達史					
	7	①社会保障制度のしくみ(1)					
	8	①社会保障制度のしくみ(2)					
	9	①現代社会と社会保障制度					
	10	①介護保険制度創設の背景と目的、動向					
	11	①介護保険制度のしくみ(1)					
	12	①介護保険制度のしくみ(2)					
	13	①介護保険制度のしくみ(3)					
	14	①介護保険制度のしくみ(4)					
15	①介護保険制度における専門職の役割 前期授業の振り返り						
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	授業参加意欲・貢献度				○		50%
履修上の注意							

科目名	心理学理論と心理的支援						
科目名(英)	Psychological Theory and Psychological Support						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	福永聡子		
実施年度	2020	実施時期	前期	担当者実務経験	スクールカウンセラー		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	①さまざまな心理学理論の基礎を学び、人の心の成り立ちや状態を理解する視点を習得する。 ②心理的支援とは何か、その方法について基本となるものを習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					学習内容の要点や疑問点を相手に伝わるように言語化できること。	
		○				日常生活の中に生かされている心理学について興味・関心を持ち、自身の日常生活と関係づけることができる。	
	○					心理的支援の意味を理解し、具体的な支援方法について説明できる。	
				○		人の心の仕組みを理解しようとする意欲と同時に自分の心の状態を見つめ理解しようとする基礎態度を身につける。	
テキスト・教材 参考図書	徹底図解 心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業内容についてオリエンテーション、「心理学とは？」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	2	心理学への招待「心理学とその歴史」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	3	心と個性「性格心理学」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	4	心と個性「さまざまな性格理論」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	5	人との関わり「社会心理学～同調行動、群集心理、ステレオタイプ」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	6	人との関わり「社会心理学～合理化、PM理論、社会的ジレンマ」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	7	心の育ち方「発達心理学～乳幼児期から青年期まで」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	8	心の育ち方「発達心理学～青年期から成人まで」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	9	心のしくみ「心と脳」「知覚・学習・認知心理学」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	10	心のしくみ「学習・記憶・思考」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	11	心のダメージ「臨床心理学の基礎」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	12	心のダメージ「さまざまな精神疾患」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	13	心のケアと支援「心理的支援の方法と実践」			教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。		
	14	心のケア「感情のコントロール～怒りについて～」			資料、ワーク		
15	まとめと復習			期末試験対策			
評価方法	(1)講義の終わりに感想・疑問点・気がついたことなどを記入・提出してもらう。 (2)期末試験を実施する。(3)出席回数。以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	授業後レポート	○	○		○		20%
履修上の注意	心理学の基礎知識を幅広く取り扱う。予習・復習を習慣にできること。あらかじめテキストを読み、自分で心理学用語を調べておくこと。内容量は多い。						

科目名	保健医療サービス						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	福祉心理科 1年						
授業概要	社会福祉士・精神保健福祉士が活動する場として医療分野がある。その他の分野においても医療分野との関わりは多く、相談援助の重要な社会資源でもある。この科目では、保健医療の概要や保健医療現場におけるソーシャルワーカーの役割等を学んでいく						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		保健医療の概要について説明することができる	
	○	○		○		保健医療現場におけるソーシャルワーカーの役割を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 医療保険サービス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保健医療の概要			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	医療保険制度の変遷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	医療保険制度の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	医療機関の類型と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	診療報酬の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	保健医療分野の専門職の理解 I			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	保健医療分野の専門職の理解 II			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	包括ケアシステムの理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	保健医療関係機関の類型と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	ソーシャルワークの変遷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	ソーシャルワーカーの役割と機能			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	医療保険サービスの諸制度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	事例研究 I					
	14	事例研究 II					
15	全体のまとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名	相談援助の基盤と専門職 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	前田浩明		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	社会福祉協議会にて 社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	福祉の相談援助現場での社会福祉士、ソーシャルワーカーの役割や意義を理解する。ソーシャルワークの概念の歴史的発展過程を学び、実践的なソーシャルワークのために必要な専門的な知識・倫理などについても理解を深める、包括的支援法について教授する。また現代社会での生活問題(貧困や虐待など)にも触れ、ソーシャルワーカーの必要性や社会的役割の重要性についても理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ソーシャルワークの歴史やソーシャルワーカーの役割を学び、その重要性を説明できる	
	○			○		身近な社会問題について福祉的視点で捉えることができ、説明できる	
	○	○		○		身近な社会問題とその支援方法について調べ、まとめて説明できる	
	○	○		○		実際の現場での具体的な職務内容について学び、具体的に説明ができる。	
	○	○		○		ソーシャルワーカーとしての倫理観について基本的な内容を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(科目ガイダンス)ソーシャルワークとはなにか					
	2	ソーシャルワークが求められる社会状況 ◎身近な社会問題について知る(GW)				新聞やニュースなどで社会問題について読んでおく	
	3	ソーシャルワークが求められる社会状況 ◎身近な社会問題について支援の状況を知る(GW)				グループごとに取り上げた問題についての支援方法について調べておく	
	4	ソーシャルワークが求められる社会状況 ◎身近な社会問題から見える私たちが住みたい社会(GW)				グループごとに取り上げた問題についての支援方法について調べておく	
	5	ソーシャルワークの視点と役割 ◎ソーシャルワーカーの活躍している現場				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	6	ソーシャルワークの資格と仕事 ◎社会福祉士の役割と仕事や専門性				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	7	ソーシャルワークの定義と歴史① ◎ソーシャルワークのグローバル定義と誕生				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	8	ソーシャルワークの定義と歴史② ◎ソーシャルワークの発展				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	9	ソーシャルワークの定義と歴史③ ◎日本におけるソーシャルワークの歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	10	ソーシャルワークを支える理念 ◎ノーマライゼーションと社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	11	ソーシャルワークの現場から ◎生活困窮者への支援からみえてくる問題				レポート提出	
	12	現代社会とソーシャルワーク ◎ソーシャルワークとはなにか				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	13	ソーシャルワークにおける倫理① ◎専門職と倫理綱領				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	14	ソーシャルワークにおける倫理② ◎倫理的ジレンマ				教科書の該当範囲を事前に読んでおく	
	15	前期の振り返り及び確認					
評価方法	①宿題やレポートを数回実施する。②定期テスト(筆記)を実施する。③出席や授業への関心・意欲・態度などを勘案し評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	宿題・レポート	◎	◎		○		10%
	グループワーク・発表	○	◎		○		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助演習Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	馬場一美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	居宅介護支援事業所にて相談員として勤務		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	ソーシャルワーカーは自分自身を専門的に用いるための基盤となるコミュニケーション能力や自己理解が必要となる。本科目では、様々な価値観が存在することを認識し、自己を知り、他人とのかかわりの体験を通じ、受け入れることの重要性を学ぶ。そして、援助を必要とする対象の理解を深め、援助実践の基礎となる考え方とコミュニケーションのあり方を理解し、ソーシャルワークの基本技術について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				価値観の違いが人と人との関係にどのような影響をもたらすかを述べるができる。	
	○	○				非言語的・言語的コミュニケーションの特性とその活用方法について述べるができる。	
		○				ジェノグラムから家族関係を読み取ることや、ジェノグラムを作成することができる。	
	○			○		演習を通して、自身の考えの変化を言語化し、文章に書き起こすことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・株式会社みらい「ソーシャルワーク演習ワークブック」 ・中央法規出版「社会福祉士 相談援助演習」 ・中央法規出版株式会社「相談援助演習教員テキスト」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(相談援助演習の意義、注意事項)					
	2	アイスブレイキング—自分を知ってもらう方法				レポート課題を期日までに提出すること	
	3	自己理解—「わたし」がみる私像、私のルール				レポート課題を期日までに提出すること	
	4	自己理解—「わたし」のコミュニケーションスタイル				レポート課題を期日までに提出すること	
	5	他者理解—価値観の違い、多様な価値観				レポート課題を期日までに提出すること	
	6	施設見学事前学習					
	7	施設見学				事前学習資料を確認しておくこと	
	8	施設見学				レポート課題を期日までに提出すること	
	9	施設見学振り返り					
	10	コミュニケーション—言語的・非言語的コミュニケーション				レポート課題を期日までに提出すること	
	11	福祉講演会				レポート課題を期日までに提出すること	
	12	福祉講演会振り返り				レポート課題を期日までに提出すること	
	13	ソーシャルワークの価値と倫理				レポート課題を期日までに提出すること	
	14	自主実習(ボランティア)について				自主実習届を期日までに提出すること	
	15	前期まとめミニテスト・振り返り				前期授業内容を復習しておくこと	
評価方法	(1)定期テストは実施しないが、最終回で前期授業内容のミニテストを実施する。(2)レポート課題。(3)個人ワーク・グループワークを実施する。 成績評価評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	ミニテスト	○	◎				20%
	レポート課題	◎	○		◎		50%
	グループワーク	○	○		◎		20%
	発表	○	○		◎		10%
履修上の注意	毎回のレポート課題の提出期限を指示する。期限厳守で提出すること。 出席が10回に満たない場合は、単位を与えることができない。						

科目名	交流ゼミ I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	馬場一美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	福祉心理科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。	
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。	
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。	
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。	
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介			グループ内で活動内容を協議しておく。		
	2	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。		
	3	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。		
	4	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。		
	5	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。		
	6	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。		
	7	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。		
	8	グループ内でのレクリエーション			グループ内で活動内容を協議しておく。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				○		100%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は、単位取得ができない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	点字						
科目名(英)	Language for persons with visual impairment (Braille)～ Introduction to asistive comunication for persons with visual impairment ～						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	吉住 寛之		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害福祉センターでの相談支援や大学等での講師(点字技能士)		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	言語・コミュニケーション文化の一つである点字の技法の学習を通じて、視覚に障害がある人への理解を深め、その支援の在り方について共に考える。視覚に障害のある人への情報支援や移動支援、その他関連する法律や制度の学習を通じて、支援のための実践的な知識と基本的なコミュニケーション能力を養う。点字については、その歴史や文化の成り立ち、合理的な仕組みと語の書き表し方について学び、簡単な読み書きが出来るように基礎的な実技の習得を目標とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○	○		視覚障害の特性に応じた基本的な、情報コミュニケーション支援(言葉での分かり易い説明や情報提供の仕方等)と移動コミュニケーション支援(声かけや接し方と屋内でのガイド等)ができる。	
		○	○	○		点字の技法については、その歴史と文化を踏まえ、簡単な点字の読み書きができ、点字による手紙のやり取りができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 『初めての点訳』第3版 NPO法人全国視覚障害者情報提供施設協会 『臨床に必要な障害者福祉—障害者福祉論』(福祉臨床シリーズ9)編集委員会編著 指田忠司共著 弘文堂 『世界の盲偉人』指田忠司著 桜雲会 『視覚障害教育入門』青柳まゆみ 鳥山由子著 ジアース教育新社 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ガイダンス ①自己紹介 ②授業の勧め方 ③視覚障害のある人の状況			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	2	点字の基礎1 ①点字の歴史 ②点字の仕組み ③点字一覧表(清音)			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	3	点字の基礎2 ①点字の器具 ②点字の書き方 ③点字一覧表(濁音 拗音)			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	4	点字の基礎3 ①点字の読み方 ②点字一覧表(半濁音 拗濁音 特殊音)			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	5	語の書き表し方1 仮名遣い			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	6	語の書き表し方2 数字			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	7	語の書き表し方3 アルファベット			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	8	情報コミュニケーション支援 言葉による分かりやすい説明や情報提供の仕方			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	9	移動コミュニケーション支援 声かけや接し方と、屋内外でのガイド方法			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	10	分かち書き1 文節分かち書き			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	11	分かち書き2 複合語			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	12	分かち書き3 固有名詞			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	13	記号類と点字の手紙の書き方			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	14	視覚に障害のある人に関わる法律や制度			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
	15	これまでのまとめと点字作品ワークショップ			理解と実技を定着させるために、毎回宿題を課する。		
評価方法	授業での取り組みや態度:10% 授業中の態度や意欲、取り組み方などを考慮する。 宿題提出:20% 12回程度行う。 課題レポート(点字の手紙):20% 試験前までに1回行う。 期末試験:50% 筆記試験と実技試験を行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					60%
	課題(点字郵便)	○		○			20%
	授業毎の宿題	○		○			10%
	出席状況等				○		10%
履修上の注意	点字の実技があるため、毎回必ず、指定テキスト(『はじめての点訳第3版』)と携帯用点字器を準備すること。視覚に障害のある人の体験型ワークショップを行うため、各自アイマスクを準備すること。点字の実技についてはテキスト・配布資料等を参考にし、自宅においても予習、復習すること。理解と実技を定着させるために、ほぼ毎回宿題を課する。						

科目名	対人心理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	富永 理恵		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	フリーランスでキャリアコンサルタント・心理カウンセラーとしてカウンセリングに従事		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	ここ数十年で、情報化社会は発達期から成熟期を迎えつつあり、「SNSを通してのコミュニケーション」が「生身のコミュニケーション」を凌駕しつつあり、「生身のコミュニケーション」より「デジタルコミュニケーション」に身を置く時間が長い。「合理的で便利」な反面、「生身の人間としてのつながり」が希薄になってきていることは否めない。そのような背景を踏まえ、かつては当たり前だった「対ヒトとどう関わっていくか」を改めて学んでいく。「基礎」の部分より「実践」を重視し、言語・非言語コミュニケーションのワークショップ、ロールプレイを主にすることで、「生身のコミュニケーション」を体感・実感させる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		「言語コミュニケーション」の機能を理解し一対一のコミュニケーションで活用することができる。	
	○	○		○		「非言語コミュニケーション」の機能を理解し一対一のコミュニケーションで活用することができる。	
	○	○		○		「言語コミュニケーション」の機能を理解し一対多のコミュニケーションで活用することができる。	
	○	○		○		「非言語コミュニケーション」の機能を理解し一対多のコミュニケーションで活用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師作成ハンドアウト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション ・「対人心理学」とは					
	2	授業内の傾聴訓練で「自分のこと」を語るできるよう、ワークを通して「自分とは」を自分自身で知る					
	3	「自分を知る」① のグループシェアリング & 全体シェアリング					
	4	「聞く」と「聴く」の違い・「受容」と「傾聴」の実践					
	5	・パーソナルスペースとは ・パーソナルスペースの確認					
	6	「言葉」をどう届けるか。「届け方」を視覚化することで「会話」の重要性を学ぶ。(「会話のキャッチボール」ワーク)					
	7	「言葉」をどう届けるか。「届け方」を視覚化することで「会話」の重要性を学ぶ(「前向き・後ろ向きでく声を届ける」ワーク)					
	8	「言葉」をどう届けるか。「届け方」を視覚化することで「会話」の重要性を学ぶ(「前向き・後ろ向きでく声を届ける」ワーク)					
	9	・表情・パーソナルスペース で与える印象 「『お座りください』ワーク」					
	10	・表情・パーソナルスペース で与える印象 「『お座りください』ワーク」					
	11	・表情・パーソナルスペース で与える印象 「『お座りください』ワーク」					
	12	「課題」をグループ全員の協力で達成する I					
	13	「課題」をグループ全員の協力で達成する II					
	14	「アイスブレイク」として使えるツール 体験					
15	言語・非言語コミュニケーションとは・グループでの協力とは						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	ワーク・発表	◎	◎		◎		30%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	音楽療法 (音楽療法的音楽活動)						
科目名(英)	Music Therapy						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村上京子・亀谷 栞		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	音楽教員		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	高齢者介護施設や、デイケア施設などで音楽療法を鑑みた音楽活動で対象者のQOL向上が望めるような技術習得と理解をめざす。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				音楽療法的音楽活動を用いて高齢者施設などにおける活動基礎を理解し、実践できる。	
	○	○				現場での音楽活動の基礎となる歌唱活動の学びと理解、活動技術を習得する。	
	○	○				現場での音楽活動での様々な楽器使用の学びと理解、活動技術を習得する。	
	○	○				音楽活動実践時のプログラムを効果的に組み立てて実践できる。	
		○	○			施設現場での実践を通して、スキル向上、振り返りでさらに意欲的に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	高齢者のための音楽療法的音楽活動入門 (ひかりのくに) 音楽療法入門(春秋社) 新しい音楽療法(音楽の友)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音楽療法の概論 DVD視聴				歌唱「ウンパッパ」リズム活動	
	2	高齢者の音楽活動での、目的(身体・心理・社会性)の学び				うさぎとかめ・春の小川・春が来た	
	3	音楽活動の実践・練習				あんたがたどこさ・朧月夜・一番ぼし見つけた	
	4	高齢者のための歌唱活動の効用と理解				ふじの山・ゆりかごのうた・青い山脈	
	5	音楽活動の実践と練習				荒城の月・サザエさん・バラがさいた	
	6	高齢者のための音楽活動における身体活動の理解と習得				夏は来ぬ・故郷・いい湯だな	
	7	音楽活動の実践と練習				おさるのかごや・村祭り・上を向いて歩こう	
	8	高齢者のための音楽活動における楽器活動の理解と習得				各プログラムの曲を活動内容にそって練習	
	9	音楽活動の実践と練習				各プログラムの曲を活動内容にそって練習	
	10	高齢者のための音楽活動の最適なプログラム作りにおける学習				各プログラムの曲を活動内容にそって練習	
	11	高齢者施設実習における音楽活動の準備				各プログラムの曲を活動内容にそって練習	
	12	高齢者施設実習における音楽活動の準備				各プログラムの曲を活動内容にそって練習	
	13	高齢者施設における現場実習準備				各プログラムの曲を活動内容にそって練習	
	14	特別養護老人ホームにて現場実習				パートごとに練習	
15	特別養護老人ホームにて現場実習				パートごとに練習		
評価方法	現場実践の展開をコミュニケーション技能として評価。歌をうたう、リズム楽器を適切に使用できる実践技能を評価。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技発表・実践			◎	○		90%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	レクリエーション I						
科目名(英)	recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田譲二		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	福岡県レクリエーション協会にて指導員		
対象学科・学年	福祉心理科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。レクリエーションは、コミュニケーションの手段の一つとしての働きがあると同時に、協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる	
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる	
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる	
	○		○			レクリエーション支援の手段として素材のアレンジ技術を身につけて実行することができる	
テキスト・教材 参考図書	プリントによる資料配付						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	レクリエーションの本質ならびに支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験① (アイスブレイキングの方法)					
	3	レクリエーションの素材の体験② (仲間づくりのためのゲーム)					
	4	子どものあそびとレクリエーション(理論と子どもの遊び実技)					
	5	レクリエーションの素材の体験③ (身近な物で作って遊ぶ)					
	6	レクリエーションの素材の体験④ (身近な物を使っての遊び)					
	7	集団内のコミュニケーションについて(理論)					
	8	レクリエーションの素材の体験⑤ (良好な集団づくりゲーム)					
	9	レクリエーションの素材の体験⑥ (意欲を引き出す遊び)					
	10	レクリエーションを対象者に合わせるアレンジ(理論)					
	11	レクリエーションの素材の体験⑦ (折り紙の世界)					
	12	レクリエーション・プログラムの作り方(理論)					
	13	グループワーク・トレーニング① (レクリエーション演習)					
	14	グループワーク・トレーニング② (レクリエーション演習)					
15	レクリエーション I のまとめ(理論)						
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)				○		30%
	授業中の課題(グループ)	○	◎		○		20%
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	自己表現 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	岡山直之		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	美術家歴35年(現在も活動中)		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	自分自身に向かい合い「自分とは何か」という思考の実感を持ち自分自身を客観的に見る。表現を通して他社との関係性の構築を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		自己分析できるようになり、自分の弱みと強みを知る	
	○	○		○		自分の意見を発言でき、他者と話し合いができる	
	○	○		○		チームで一つの目標を達成できるように他者と連携を取ることができる	
	○	○	○	○		表現作品を制作、発表することによって自信をつけることができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業全体のオリエンテーション、班分け、話し合い				どんな表現作品をつくりたいか、イメージする	
	2	班での話し合い①				自分の意見をまとめておく	
	3	班での話し合い②				他者の意見をきき、新しいアイデア考える	
	4	発表に向けての練習、話し合い、修正①				自主性を促す	
	5	発表に向けての練習、話し合い、修正②				準備物を明確にし、用意する	
	6	発表に向けての練習、話し合い、修正③					
	7	発表に向けての練習、話し合い、修正④					
	8	発表に向けての練習、話し合い、修正⑤					
	9	発表に向けての練習、話し合い、修正⑥					
	10	班別に指導①				自主練習を促す	
	11	班別に指導②					
	12	リハーサル①					
	13	リハーサル②					
	14	発表					
15	振り返り、話し合い、レポート作成						
評価方法	①作品(表現活動)を作成し発表する ②話し合い、振り返りのレポートを作成する 以上を下記の観点で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	◎		◎		50%
	作品発表	○	◎	◎	◎		50%
履修上の注意	欠席が5回以上になる場合は単位を与えない						

科目名	グローバルシティズンベーシック I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1	時間数	8コマ	担当者	馬場 一美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	福祉心理学科 1年						
授業概要	この科目では、世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に協力できる人を目指すことを目的とし、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)について学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					麻生塾の求めるコンピテンシーについて理解する。	
		○				日常生活で意識して行動にうつすことができる。	
		○				キャリアビジョンをもち、その目標達成への具体的な行動を述べるができる。	
		○		○		授業で学んだことに対して自分の考えをレポートにまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンを目指そう			テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること		
	2	「協働」の態度を持った学生生活			テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること		
	3	よりよい人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性			テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること		
	4	マナーの本質 I			テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること		
	5	マナーの本質 II			テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること		
	6	グローバルシティズンとしての日常			テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること		
	7	グローバルシティズンとしての目標			テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること		
	8	グローバルシティズンとしての「志」にむけて			テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループワークでの参加状況 (3)授業中の態度(居眠り・私語・積極的な発言)以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、R評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○		○		50%
	出席状況				○		20%
	演習(グループワーク)		○		○		30%
履修上の注意	レポートは期限を守る。誤字・脱字がないか確認し丁寧な字で記入する。出席が2/3に満たない場合は、単位取得ができない。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	地域福祉の理論と方法 I					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高崎修一	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	民生委員・児童委員として地域福祉に関与	
対象学科・学年	心理福祉学科					
授業概要	地域福祉の大切さを学習する。そのために地域福祉に関する考え方、言葉などを理解してもらい、先人たちがいかに福祉に関わり社会福祉とは地域福祉を推進することであるといわれるまでの歴史をたどってきたか、またその歴史に学ぶところはないかを考えていただきたい。そして後期の地域福祉の実践につながる授業を行う。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
	※ 主たる方法:○ その他:△					
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					地域福祉に関わる言葉の理解。
		○				基礎的知識をつけそれを応用できる人材を目指す。
				○		授業に対する熱意、地域福祉に如何に関わっていきけるのかの理解。
テキスト・教材 参考図書	「よくわかる地域福祉」ミネルバ書房5版、自己作成プリント、参考図書「コミュニティソーシャルワークの理論」大橋謙策氏					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	地域福祉とは、地域とは、福祉とは、日本の福祉に関わる現状とは				授業外学習は特に行わないが、法、制度の改正などに関して常に注意を喚起する。以下同じ
	2	福祉サービスとは、福祉専門職の心構えとは、地域福祉の必要性				
	3	地域福祉の登場の背景。相互扶助、結、もやい、講など				
	4	地域福祉の2つの機能。個別支援的、地域支援的機能、実践事例				
	5	社会福祉基礎構造改革の必要性と地域福祉の理念				
	6	地域福祉の構成要素。岡村、石田、永田他の理論。コミュニティとは				
	7	地域福祉用語:コミュニティケア、ノーマライゼーション等				
	8	地域福祉用語:ボランティア、協働・パートナーシップ等				
	9	地域福祉用語:エンパワメント、アドボカシー、地域自立生活等				
	10	地域福祉計画。英国福祉の歴史的展開:ヘンリー8世以降				
	11	英国福祉の歴史的展開:フレア・ブラウン迄、米国福祉の歴史的展開				
	12	米国福祉の歴史的展開:オバマケア迄				
	13	日本の福祉の歴史的展開:仏教伝来、福田思想、～戦前迄				
	14	戦後の福祉3法、6法～地域福祉のあり方研究会報告。				
15	地域包括ケアシステム、地域共生社会の実現、社会福祉法改正等					
評価方法	前期は章ごとの小テストは実施せず正試験での評価がほとんどを占めるが、授業態度、取り組む姿勢なども考慮する。評価基準は当校の評価基準にて5段階評価とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
						評価割合
	正試験	○	○			90%
	小テスト					前期は無し
	授業態度				○	10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験(定期試験)の受験資格を与えないものとする。					

科目名	マナー I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	小川 智子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	企業にて秘書及び研修講師		
対象学科・学年	福祉心理学科 1年生						
授業概要	福祉従事者としての立ち居振る舞いについて考え 豊かな対人コミュニケーションの為の正しい言葉遣いとマナーを身につける						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					第一印象の重要性について理解できる	
	○					場面に応じた正しい言葉遣いについて理解できる	
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る	
	○					社会生活の中で正しいマナーについて理解し活用することが出来る	
			○			愛される福祉従事者としての立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション、好印象の自己紹介					
	2	マナーとは（第一印象の重要性）				予定項目について自分の考えをまとめておく	
	3	正しい姿勢と立ち居振る舞い				予定項目について自分の考えをまとめておく	
	4	マナーの基本①				配布されたプリントを読んでおく	
	5	マナーの基本②				配布されたプリントを読んでおく	
	6	あいさつ・受け答え				配布されたプリントを読んでおく	
	7	話し言葉と敬語①				配布されたプリントを読んでおく	
	8	話し言葉と敬語②				配布されたプリントを読んでおく	
	9	話し言葉と敬語③				配布されたプリントを読んでおく	
	10	話し言葉と敬語④				配布されたプリントを読んでおく	
	11	言葉の選び方・表現の方法①				配布されたプリントを読んでおく	
	12	言葉の選び方・表現の方法②				配布されたプリントを読んでおく	
	13	目上の人とのコミュニケーション①				配布されたプリントを読んでおく	
	14	目上の人とのコミュニケーション②				配布されたプリントを読んでおく	
15	総まとめ				配布されたプリントを読んでおく		
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	グループワーク・発表				◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	発達心理学						
科目名(英)	developmental psychology						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大黒剛		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	発達臨床心理士		
対象学科・学年	福祉心理学科1年						
授業概要	この講義では、人間の発達について理解を深めることを目指します。乳幼児期、児童期、青年期までの各段階の特徴を、知覚と運動、知能と言語、感情、遊びと社会性などの観点から説明します。成人期、高齢期の発達特徴と課題について「生きがい」と関連して説明します。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					発達には段階があり、各段階にはそれぞれ発達上の課題があることを理解する。	
	○	○				発達の多様性について理解することができる。	
		○		○		発達上の課題を効果的に支援する方法について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 発達心理学～乳児期から老年期まで～ 近畿大学九州短期大学 ・参考資料等、適宜配布する 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	発達心理学とは、発達のとらえ方 遺伝と環境				あなたの外見や性格は家族の誰に似ているのか、考えておくこと。	
	2	主な発達心理学者(発達心理学の歴史)① フロイト				フロイトの発達理論について調べておくこと。	
	3	主な発達心理学者(発達心理学の歴史)② エリクソン				エリクソンの心理社会的8段階について調べておくこと。	
	4	言語の発達、コミュニケーション				人と円滑にコミュニケーションを取るにはどんなテクニックがあるのか、自分なりの工夫を考えておくこと。	
	5	感情の発達、遊び				特に幼少期にどんな遊びをしていたのか思い出しておくこと。	
	6	社会問題と発達心理学① 児童虐待と愛着関係				児童虐待について最新のニュースについて調べておくこと。	
	7	自分史発表 ①				自分の発表の順番を把握して、事前に準備をすること。	
	8	自分史発表 ②				自分の発表の順番を把握して、事前に準備をすること。	
	9	青年期の特徴 恋愛とアイデンティティについて				恋愛とは何か。その定義について考えておくこと。	
	10	成人期 結婚、就職、出産について				あなたの理想の結婚とは何か考えておくこと。	
	11	老人期 老後の生き方、老人と性について考える				あなたらしい老後、あなたらしい生き方について考えておくこと。	
	12	死ぬということ 自分らしい生き方と安楽死について				安楽死が法的に許される国々について調べておくこと。	
	13	社会問題と発達心理学② ゲーム依存症について				最近のEスポーツの動向について調べておくこと。	
	14	社会問題と発達心理学③ インターネットが及ぼす影響				携帯やインターネット依存症について調べておくこと。	
15	全体の振り返り				事前に教科書やノートを全て熟読しておくこと。テストに関する質問を考えておくこと。		
評価方法	(1)授業の中でワークプリント作成を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	ワークプリント	◎	◎		◎		20%
	ワーク結果発表	○	◎		◎		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						